

前回会議の補足意見について

広島県立呉南特別支援学校長 東内桂子

○サポートファイルについて

障害があることが分かったとき、各市町の窓口から保護者に「サポートファイル」が渡されると聞いている。

しかし、これが活用されていないようである。

出生から幼児期、学齢期、青年期…と切れ目のない支援体制を構築するためにも有効なツールであると思われる。また災害時にも有効なツールであると思われる。

この会議で話題になった冊子作りや取組など、新しいことに着手するのも大切だと思うが、今あるものが活用できなければ、同じ結果になってしまうのではないかと危惧される。

○個別の教育支援計画について

学齢期の切れ目のない支援を実現させるために大切なツールであると思う。

本来は各教育現場で項目や記入する内容等について研究すべきものであると思うが、それゆえに精度の差が出ていると承知している。

そのためある程度、国のレベルで、学校間の「引継ぎ」の目的を明確にしたうえで、「個別の教育支援計画」に記載すべき事項や、「引継ぎ」する際に、特に必要な項目等を一定程度整理し示した方がよいのではないかとと思われる。また、そのうえで、デジタル化を早急に進め、連携がしやすくすることも必要であると考えます。（そのための環境整備を国、自治体が連携して進めていくことが重要である。）